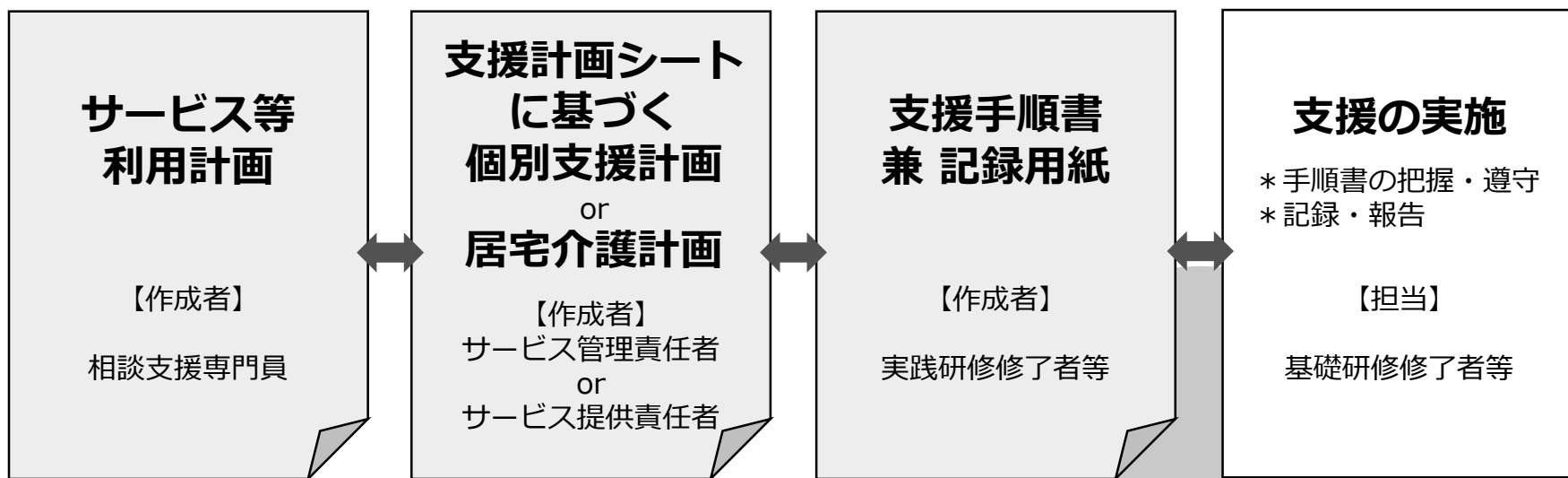


支援の基本的な流れ | 枠組み



- 日々の利用者の変化に応じた細かな支援の変更が必要
- 支援の記録を取り、修正に反映する仕組みが重要になる

研修修了者に期待されること

- 障害特性を理解した支援が大切であることを学ぶ
(基礎研修修了者)
- チームで取り決めた支援方法を丁寧に実施する大切さを学ぶ (基礎研修修了者)
- 具体的な支援手順書を作成できるようになる
(実践研修修了者)
- チームで協力して支援を続けることの大切さを学ぶ
(実践研修修了者)
- 利用者を大事にし、職員も孤立しない支援の実現！

基礎研修と実践研修の目指すもの

基礎研修

障害特性を理解した支援が大切であること、個人プレイに走らずチームで取り決めた支援方法を丁寧に実施する大切さを学ぶ

【講義】

- 強度行動障害とは（地域で強度行動障害者に支援する体制を構築する重要性）
- 様々な強度行動障害者支援の取り組み（実践報告・家族の提言・医療との連携）
- P D C Aサイクルの重要性（構造化、記録と再計画）

【演習】

- 気付き：障害特性の理解の重要性（コミュニケーション理解と様々な手がかり）
- 探索：行動の背景を考える（冰山モデル）

実践研修

障害特性に配慮した具体的な支援計画を立案し、チームで協力して支援を続けるために努力することの大切さを学ぶ

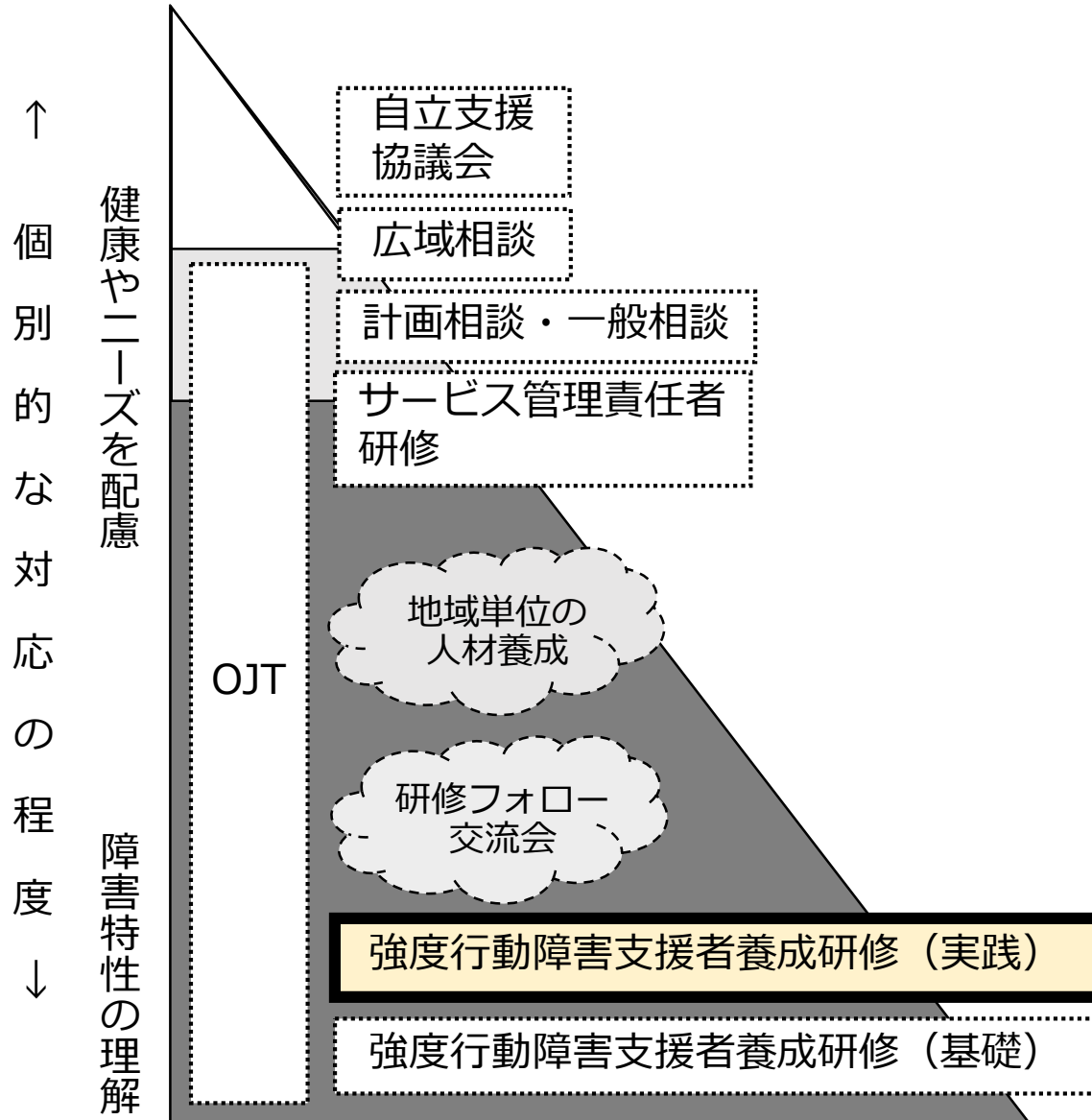
【講義】

- チーム支援の基本（チームで同じ方向に向かって支援することの重要性）
- 様々な強度行動障害者支援の取り組み（実践報告・家族の提言・医療との連携）

【演習】

- プラン①：障害特性に配慮した支援計画の立案（4つのプロセス）
- プラン②：支援の手順書の作成
- 記録：効果的な情報収集の方法・チームで支援するための報告

強度行動障害者支援の人材養成



特別な事業所のみでなく、地域全体の理解や対応力向上が必要であり、マネジメント機能を高める研修が必要が必要。



現場支援者がチームとして継続的に動けるように、その中核となって、障害特性を適切に踏まえた支援計画や具体的な手順書を作成できる人材を育成することが必要。



行動障害の背景にある障害特性を理解し、どのように対応を行うか、その基本的ノウハウを学ぶ第一歩の研修が必要

これまでの全国各地の研修修了者数

